

富士山火山広域避難計画（案）

富士山火山広域避難計画(案)の概要は以下のとおり。詳細は別添「富士山火山広域避難計画(案)」参照。

1 広域避難計画策定の考え方

対象とする火山現象は、約 3,200 年前以降複数の実績があり、発生頻度が高い現象（火口形成、火砕流、大きな噴石、溶岩流、融雪型火山泥流、降灰、小さな噴石及び降灰後土石流）とする。

なお、火山現象の規模等は富士山ハザードマップ検討委員会による報告書（平成 16 年）を基本とし、融雪型火山泥流、降灰及び小さな噴石については、その後のシミュレーション結果を踏まえる。

2 影響が想定される範囲と避難を要する範囲（具体的な範囲は火山現象別に P.2 に記載）

- ・「影響想定範囲」：火山現象の影響が想定される範囲
- ・「避難対象エリア」：避難を要する範囲

3 避難先

生命への危険性	対象となる火山現象	避難先
危険性が大きい	火口形成、火砕流、大きな噴石、溶岩流、融雪型火山泥流、降灰後土石流	避難対象エリアの外
危険性が相対的に小さい	降灰、小さな噴石	避難対象エリア内の安全な場所

避難対象者は、まず自市町村内での避難とし、受入れ可能人数を超えた場合には、市町村外への広域避難とする。この場合、同一県内の他市町村への避難を基本とするが、火山活動等の状況、地理的要因及び避難者の希望等により、隣県への避難が必要となった場合には、山梨県、静岡県、神奈川県が相互に協力し、避難者の受入れを行う。

4 避難時期

時間的猶予	対象となる火山現象	避難時期
時間的猶予なし	火口形成、火砕流、大きな噴石、溶岩流（溶岩流到達 3 時間以内）、融雪型火山泥流、降灰後土石流	各現象発生前に避難
時間的猶予あり	溶岩流（溶岩流到達 3 時間超）、降灰、小さな噴石	各現象発生後に避難

5 避難対象者

「一般住民」、「避難行動要支援者」、「観光客・登山者」に区分し、避難行動要支援者は、一般住民が避難準備の段階で避難とするなど一段階早い対応とする。

また、観光客・登山者は、一般住民が避難準備の段階で入山規制とする。

6 避難開始基準

「噴火前」、「噴火開始直後」、「噴火開始後」の 3 つの時点に分けて、下表のとおり設定する。

時 期	対 応
噴火前	噴火前は、気象庁が発表する噴火警戒レベルに応じて避難
噴火開始直後	噴火開始直後は、避難対象エリア内ではすぐに避難
噴火開始後	噴火開始後は、火山の状況（火山現象の進行状況）に応じて避難

7 避難解除基準

国、関係県及び市町村、火山専門家等の関係者は、噴火の状況に応じて、下表の基準に基づき避難対象範囲の縮小・解除について検討を行う。

時 期	対 応
火口特定時	噴火により火口の位置が特定され、別の火口の出現等のおそれのない場合は、火山現象が影響しない地域の避難解除を検討
小康期	火山現象の拡大のおそれなくなった場合は、拡大を前提とした地域の避難解除を検討
終息期	火山活動が終息した場合は、帰還できる地域の避難解除を検討するとともに、長期的に帰還が困難な地域を特定し、復旧復興に着手

8 避難対象となる範囲

火山現象	避難対象	説明
火口形成、火砕流、大きな噴石、溶岩流	影響想定範囲	可能性マップの示す範囲 (火口形成、火砕流、大きな噴石、溶岩流)
	第1次避難対象エリア	想定火口範囲
	第2次避難対象エリア	火砕流、大きな噴石、溶岩流(3時間以内)到達範囲
	第3次避難対象エリア	溶岩流(3時間-24時間)到達範囲
	第4次A避難対象エリア	溶岩流(24時間-7日間)到達範囲
	第4次B避難対象エリア	溶岩流(7日間-約40日間)到達範囲
融雪型火山泥流	影響想定範囲	可能性マップの示す範囲 ※融雪型火山泥流の想定影響範囲には、避難対象エリア外の部分もある。
	避難対象エリア	融雪型火山泥流の流下、堆積が予想される範囲 (シミュレーション結果等により流下が想定される部分)
降灰	影響想定範囲	降灰可能性マップの示す範囲(降灰堆積深2cm以上)
	避難対象エリア	降灰堆積深が30cm以上になると想定される範囲 ※1※2※3
	屋内退避対象エリア	降灰堆積深が30cm未満と想定される範囲 ※2
小さな噴石	影響想定範囲	1cm以上の小さな噴石の降下が想定される範囲
降灰後土石流	影響想定範囲	可能性マップの示す範囲 ※降灰後土石流の想定影響範囲には、避難対象エリア外の部分もある。
	避難対象エリア	土石流危険渓流の土石流危険区域、または土砂災害警戒区域

※1 避難対象エリアの基準となる降灰堆積深は、今後さらに検討を進め、必要に応じて見直しを行うこともある。

※2 気象庁が予め実施したシミュレーション結果を基に、噴火の可能性が高まった段階で風向等の気象条件等を加味して判断する。
また、気象庁が噴煙等の観測結果を基にリアルタイムで実施するシミュレーション結果も参考にする。

※3 降灰堆積状況の観測により得られた降灰分布図も参考にする。

9 富士山火山広域避難の流れ

上段：一般住民
中段：避難行動要支援者
下段：観光客・登山者

(1) 噴火前（噴火警戒レベルの上昇）と噴火開始直後の避難

区分	噴火警戒レベル	溶岩流					融雪型 火山泥流	降灰		小さな 噴石	降灰後 土石流	
		火砕流、大きな噴石		第3次 避難対象エリア	第4次A 避難対象エリア	第4次B 避難対象エリア		避難対象エリア	避難対象エリア			屋内退避対象エリア
		火口形成	火砕流、大きな噴石									
噴火前	3	避難準備・避難 避難 入山規制 【全方位】	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	4	避難 避難 避難 【全方位】	避難準備 避難 入山規制 【全方位】	—	—	—	避難準備 避難 入山規制 【全方位】	【降灰前に避難を要する場合】		—	—	
	5	避難 避難 避難 【全方位】	避難 避難 避難 【全方位】	避難準備 避難 入山規制 【全方位】	—	—	避難 避難 避難 【全方位】	避難 避難 避難	避難準備 避難準備 避難準備	—	—	
噴火開始直後		避難 避難 避難 【全方位】	避難 避難 避難 【全方位】	避難 避難 避難 【必要なライン】	避難準備 避難 入山規制 【必要なライン】	—	避難 避難 避難 【必要な範囲】	降灰可能性マップの範囲 避難準備 避難準備 避難準備 避難準備	屋内退避準備 屋内退避準備 屋内退避準備	屋内退避準備 屋内退避準備 屋内退避準備	—	

—：避難行動の対象外

(2) 噴火開始後の現象発生別の避難

区分	溶岩流					降灰		小さな 噴石	降灰後 土石流
	第1次 避難対象エリア	第2次 避難対象エリア	第3次 避難対象エリア	第4次A 避難対象エリア	第4次B 避難対象エリア	避難対象エリア	屋内退避対象エリア		
現象の発生	溶岩流の流下の場合					火山灰の降下の場合		小さな噴石の降下の場合	土石流の危険がある場合
噴火開始後	避難 避難 避難 【対象ライン】	避難 避難 避難 【対象ライン】	避難 避難 避難 【対象ライン】	避難 避難 避難 【対象ライン】	避難準備 避難 入山規制 【対象ライン】	避難 避難 避難 【対象ライン】	降灰シミュレーション(気象庁作成)の範囲等を参考に設定 避難 避難 避難	避難準備 屋内退避 屋内退避 屋内退避	避難準備/避難 (降雨により) 避難準備/避難 (降雨により) 避難準備/避難 (降雨により)

* A 第4次A避難対象エリアに流下の可能性がある場合。

* B 第4次B避難対象エリアに流下の可能性がある場合。

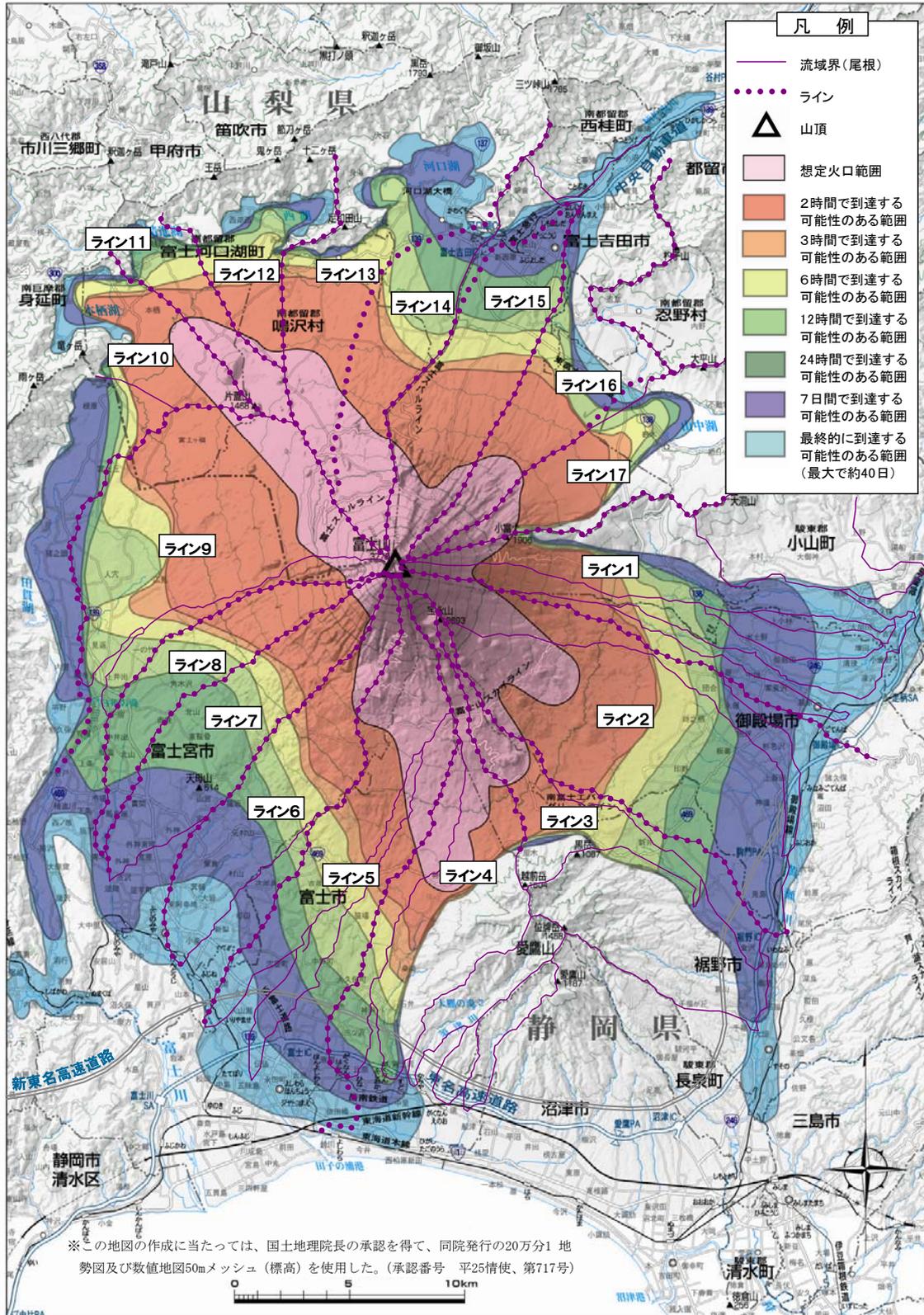
10 避難対象者数と避難先

(1) 溶岩流等

噴火前は全方位避難とする。噴火開始後はライン避難とし、基本的に単独ラインが避難対象となるが、複数のラインが避難対象となる場合も考えられるので、本計画では3ライン同時避難における避難対象者数により避難先を検討した。

火口形成、火砕流及び大きな噴石に対しては、噴火前に避難対象エリア外への避難とする。

溶岩流に対しては、山頂から延びる尾根で17のラインに区分し、到達時間により段階的な避難とする。



溶岩流の流下ライン

①単独ライン避難における避難対象者数

(単位：万人)

ライン名	避難対象者数	避難対象エリア別					避難先別	
		第1次	第2次	第3次	第4次A	第4次B	自市町村 内避難者 数	広域避難 (市町村外避難) 対象者数
ライン1	5.9	0	0	0.6	2.3	2.9	0.3	5.6
ライン2	6.0	0	0	0.9	2.5	2.6	0.2	5.7
ライン3	6.3	<0.1	0.1	0.3	1.6	4.4	0.9	5.4
ライン4	4.4	<0.1	0.1	2.2	1.5	0.7	2.3	2.1
ライン5	13.1	0	0.1	1.7	4.6	6.7	1.8	11.3
ライン6	7.6	0	0	0.4	2.6	4.7	0.4	7.3
ライン7	6.9	0	0	0.7	4.0	2.3	0.7	6.3
ライン8	4.4	0	0.2	0.7	3.2	0.4	0.9	3.5
ライン9	2.6	0	0.3	0.3	1.7	0.4	0.5	2.1
ライン10	0.4	0	0.1	0	0.3	0	<0.1	0.4
ライン11	0.1	0	0.1	0	0	0	<0.1	0.1
ライン12	0.3	0	0.2	<0.1	0	0	0.1	0.2
ライン13	2.9	0	0.3	1.0	1.5	0	0.1	2.8
ライン14	4.6	0	<0.1	1.1	2.4	1.0	0	4.6
ライン15	5.6	0	0	2.0	2.5	1.0	0	5.6
ライン16	3.2	0	0	1.0	1.1	1.1	0.1	3.1
ライン17	0.3	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3

※平成24年4月1日時点。

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※「<0.1」は、500人未満を示す。

②3ライン同時避難における避難対象者数

(単位：万人)

ライン名	避難対象者数	自市町村内避難者数	広域避難(市町村外避難)対象者数
ライン1・2・3(富士東麓最大)	16.1	0.1	16.0
ライン2・3・4	16.8	3.5	13.3
ライン3・4・5	23.2	4.8	18.4
ライン4・5・6	23.8	4.2	19.7
ライン5・6・7(富士西麓最大)	23.4	2.6	20.8
ライン6・7・8	11.7	1.3	10.5
ライン7・8・9	9.2	1.2	8.0
ライン8・9・10	5.9	1.0	4.9
ライン9・10・11	2.7	0.6	2.1
ライン10・11・12	0.7	0.1	0.6
ライン11・12・13	3.0	0	3.0
ライン12・13・14	6.8	0	6.8
ライン13・14・15(富士北麓最大)	8.4	0	8.4
ライン14・15・16	6.5	0.1	6.5
ライン15・16・17	5.9	0.1	5.8
ライン16・17・1	9.4	0.4	9.0
ライン17・1・2	10.1	0.5	9.6

※平成24年4月1日時点。

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※「富士東麓最大」等は、その方向の山麓において、広域避難対象者数が最大のものを示す。

③避難先と広域避難対象者の受入れ

3ライン同時避難の広域避難先地域別人数

(単位：万人)

区分		避難先	山梨県				
			中北地域 (7市町)	峡東地域 (3市)	東部地域 (6市村)	峡南地域 (5町)	合計 (21市町村)
広域避難移動 想定人数	富士北麓 (ライン13・14・15の場合)		3.5	3.0	1.5	0.5	8.5

※平成24年4月1日時点。

※山梨県の調整による避難想定人数の目安を示す。

(単位：万人)

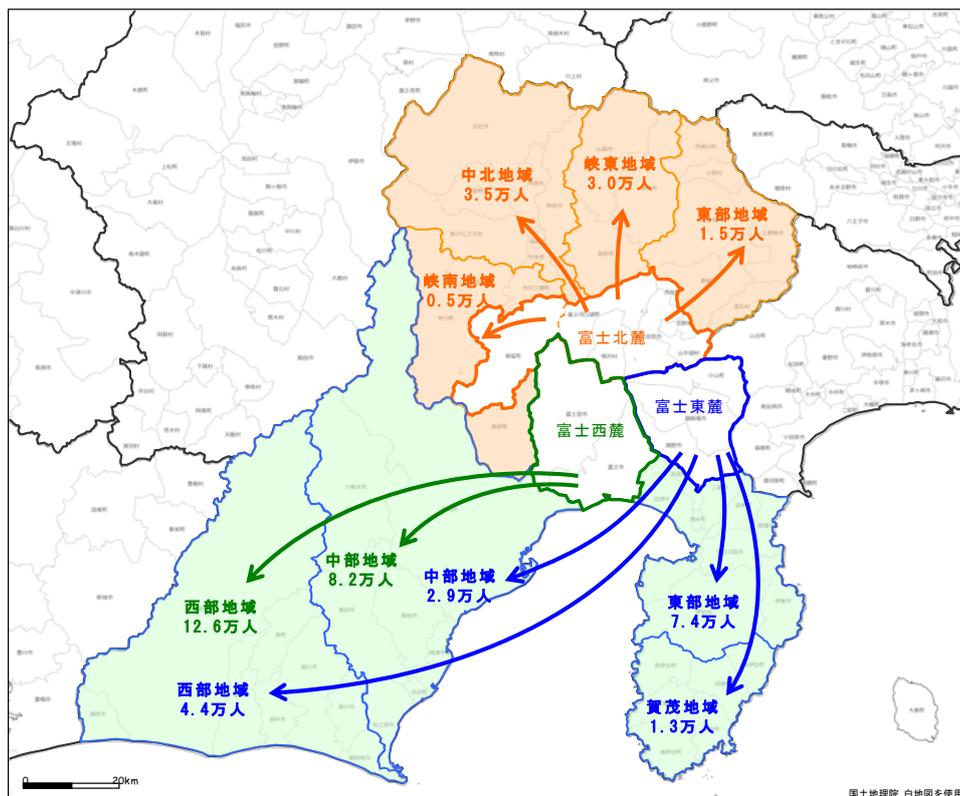
区分		避難先	静岡県				
			賀茂地域 (6市町)	東部地域 (9市町)	中部地域 (7市町)	西部地域 (8市町)	合計 (30市町)
受入れ可能人数			1.4	13.1	8.3	12.7	35.6
広域避難 対象者数	富士東麓 (ライン1・2・3の場合)		1.3	7.4	2.9	4.4	16.0
	富士西麓 (ライン5・6・7の場合)		0	0	8.2	12.6	20.8

※平成24年4月1日時点。

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※富士東麓及び西麓において、それぞれ広域避難対象者数が最大となるケースで、大部分が溶岩流等の影響想定範囲に含まれる富士山周辺市町(小山町、御殿場市、裾野市、富士市、富士宮市)を避難先としない場合を示す。

※「東部地域(9市町)」とは、富士山周辺市町を除いたものである。



※平成24年4月1日時点。

※各地域への避難人数の考え方は次のとおりとする。

- ・山梨県：山梨県の調整による避難想定人数の目安を示す。
- ・静岡県：富士山東麓及び西麓において、それぞれ広域避難対象者数が最大となるケースで、大部分が溶岩流等の想定影響範囲に含まれる富士山周辺市町(小山町、御殿場市、裾野市、富士市、富士宮市)を避難先としない場合を示す。

3ライン同時避難の広域避難先地域

(2) 融雪型火山泥流

避難先は、原則、避難対象エリア外の高所・高台、堅牢な建物とする。

融雪型火山泥流の流下、堆積が予想される範囲内の推計人口（単位：万人）

県名	市町村名	推計人口
山梨県	富士吉田市	2.5
	西桂町	0.1
	忍野村	<0.1
	山中湖村	0.1
	富士河口湖町	0.4
	鳴沢村	<0.1
	身延町	—
静岡県	小山町	0.1
	御殿場市	1.2
	裾野市	0.2
	三島市	—
	沼津市	—
	長泉町	—
	富士市	1.1
	富士宮市	2.5

※推計人口は、融雪型火山泥流の流下、堆積が予想される範囲における人口メッシュデータ（平成22年国勢調査、平成22年10月1日時点）から推計した参考値である。

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※「<0.1」は、500人未満を示す。

※「—」は当該市町村に融雪型火山泥流の流下、堆積が予想される範囲が無いことを示す。

(3) 降灰

避難先は、近隣の堅牢な建物とするが、その後、広域避難する場合は溶岩流等の広域避難先を準用する。

宝永噴火の降灰分布再現図における推計人口（単位：万人）

県名	市町村名	宝永噴火における降灰堆積深			
		2 cm 未満	2 cm 以上 【影響想定 範囲相当】	2 cm 以上 30cm 未満	30cm 以上 【避難対象エリア相当】
山梨県	富士吉田市	5.2	—	—	—
	西桂町	—	—	—	—
	忍野村	0.9	—	—	—
	山中湖村	0.1	0.4	0.3	0.1
	富士河口湖町	—	—	—	—
	鳴沢村	0.3	—	—	—
	身延町	—	—	—	—
	都留市	3.3	—	—	—
	道志村	0.2	—	—	—
	上野原市	2.6	—	—	—
	小計	12.6	0.4	0.3	0.1

県名	市町村名	宝永噴火における降灰堆積深			
		2 cm 未満	2 cm 以上 【影響想定 範囲相当】	2 cm 以上 30cm 未満	30cm 以上 【避難対象エリア相当】
静岡県	小山町	—	1.9	—	1.9
	御殿場市	—	8.6	4.3	4.3
	裾野市	3.6	1.8	1.8	—
	三島市	11.3	—	—	—
	沼津市	—	—	—	—
	長泉町	4.2	—	—	—
	富士市	25.9	—	—	—
	富士宮市	13.6	—	—	—
	函南町	3.8	—	—	—
	熱海市	3.9	—	—	—
	伊豆の国市	5.0	—	—	—
伊東市	7.2	—	—	—	
	小計	78.5	12.3	6.1	6.2
神奈川県	神奈川県	33.0	872.3	831.7	40.6
	小計	33.0	872.3	831.7	40.6
合計		124.1	885.0	838.0	47.0

※平成 24 年 4 月 1 日時点。

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※「—」は、当該市町村には当該降灰堆積深の範囲が無いことを示す。

(4) 降灰後土石流

避難先は、基本的に通常の土砂災害と同様の対応とし、土砂災害に対して指定された避難場所となる。

降灰後土石流の影響想定範囲内に存在する土石流危険渓流数

(単位：箇所)

山梨県		静岡県		神奈川県	
市町村名	土石流危険渓流数	市町村名	土石流危険渓流数	市町村名	土石流危険渓流数
富士吉田市	29	小山町	47	相模原市	219
西桂町	14	御殿場市	30	横須賀市	6
忍野村	19	裾野市	44	平塚市	17
山中湖村	45	三島市	20	鎌倉市	25
富士河口湖町	74	沼津市	11	小田原市	104
鳴沢村	18	長泉町	2	茅ヶ崎市	1
身延町	109	富士市	20	秦野市	69
甲府市	28	富士宮市	86	厚木市	27
都留市	134	熱海市	51	伊勢原市	70
大月市	176	函南町	17	南足柄市	28
笛吹市	92	静岡県 計	328	葉山町	2
上野原市	115			大磯町	14
中央市	15			二宮町	6
市川三郷町	65			中井町	7
道志村	56			大井村	6
山梨県 計	989			松田町	45
				山北町	67
				箱根町	82
				真鶴町	4
				湯河原町	38
				愛川町	19
				清川村	28
				神奈川県 計	884

三県合計 2,201 箇所